

---

# ハロウィンのともだち

あららぎ慎駒

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ハロウインのともだち

### 【EZコード】

N9432C

### 【作者名】

あらいわき慎駒

### 【あらすじ】

ハロウインがちかづいたある日森のなかにすむオバケはさんぽにでかけました。はたけにいつたオバケはなにかにあたまをぶつけてしまいました。するとオバケのあたまはカボチャになってしましました。そんなオバケとカボチャのおはなし。

ふかい ふかい 森のおくに ひとりのオバケがすんでいました。

オバケは もつすぐやつてくる 一年にいちどのおまつり ハロウインが とても とても たのしみでした。

ある日 オバケは 森をでて セんぼにこきました。

足がないオバケは すいすい 空をとんでいきます。

森をぬけて お花ばたけを見て 大きな川をわたって すると  
ひろい ひろい はたけがありました。

はたけには はじめてみる やせいが たくさんせえていました。

オバケは ドキドキしながら やせこを じつとみつめたり さ  
わつたりしました。

すると オバケは なにかにぶつかってしまいました。

「イタイ イタイ」

オバケは あたまを おわれました。

「あれ？ あたまが大きくなつてゐる？」

すると あたまから じえがきじえます。

「あれ？ なんだか セがたかくなつたぞ」

オバケは かんがえました。

川にもどつて 水にうつつたじぶんのかおを のぞきこみました。

「あたまが カボチャになつてるぞ」

オバケはびっくりしました。

カボチャは よろこんでいいました。

「せがたかくなつて いろんなものがみえるようになつた。 空を  
とべるようになつて いろんなところにいけるようになつた」

オバケも たのしくなりました。

「ふたりなら なんでもできるかもしねない」

オバケとカボチャは いつしょにくらしました。

ハロウィンの日 オバケとカボチャは 森にいきました。

オバケは くらいところがすきです。

森には 大きな 大きな木が たくさんはえていています。

オバケは カボチャに だいすきな森をあんないしてあげました。

「まじょさんも いろんな森にすんでいるのかな?」

オバケは いいました。

ずっとずっと とおくの森にすんでいて ハロウインの日だけ  
みんなの前にやつてくるまじょ。

オバケは まじょにあいたくて しかたがないのです。

「はやく まじょさんにあいたいなあ。」

オバケは たのしみにしています。

「たのしみだ。はやく あいたいなあ。」

カボチャも いいました。

すると 森の上を なにかがとんでもありました。

「まじょさんだ!」

ふたりは じえをそろえて いいました。

オバケは おいかけよつと 空をどびます。

でも あたまのカボチャがおもたくて なかなか おいつけませ  
ん。

「カボチャがおもたくて とべなによー。」

オバケは いいました。

すると オバケのあたまから カボチャがとれて ジメンにおちてしましました。

かるくなつたオバケは なにもいわずに とんでいつてしましました。

カボチャは くらい森でひとりぼっちになつてしましました。

オバケは いつしょうけんめい まじょを おいかけました。

どれだけ がんばつても オバケは まじょにおいつくことができません。

「まじょさんまつて！」

オバケは 大きなこえで よびました。

すると まじょはとまつて いいました。

「あなたの 大切なものはなんだい？」

「大切なものの？」

「それといつしょに 山のちよひじよづく おゆき」

そういうと まじょは また とんでいきました。

オバケは 大切なものはなにか かんがえました。

ふと カボチャのことを おもいだしました。

すると 「んどは かなしくなりました。

いそいで カボチャをさがしに 森のなかにもどりました。

カボチャは じつとしていました。

オバケは カボチャをみつけると なんどもあたまをぶつけました。

「イタイよ いたいよ」

カボチャはいました。

なんだ あたまをぶつけても いつしょになることはありません。

あきらめたオバケは カボチャを もちあげていました。

「山のちゅうじゅうへ いいひ

オバケは いつしょうけんめい とびました。

山のちゅうじゅうへと もう 夜になっていました。

空には たくさんのはしが みました。

オバケは カボチャをあたまの上まで もちあげました。

すると 空いっぱいのほしが ながれぼしにかわりました。

「大切なものは ともだちだ」

オバケは いいました。

「ずっと いつしょに いよつ」

カボチャは いいました。

ふたりは ながれぼしがきえるまで ずっと 空をながめていました。

(後書き)

読んでいただき、ありがとうございました。ストーリーは、今日見た夢からなっています。どうして夢の主人公がオバケだつたんでしょう。絵本のようなイメージで書いてみたのですが、いかかでしたでしょうか？感想など頂けるうれしいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9432c/>

---

ハロウィンのともだち

2010年10月10日01時28分発行